

# 歴史

国技といわれ、日本の伝統文化である相撲。その大きな魅力の一つが、1500年以上も続く長い歴史です。相撲の奥深さを知ることにより、本場所観戦をより楽しめるよう簡単にその歴史をご紹介します。



## 「相撲の起源」

相撲は人間の闘争本能の発露である力くらべや取っ組み合いから発生した伝統あるスポーツです。これによく似た形態のスポーツは古来世界各地で行われました。

# 品格

神事に由来する相撲は、華やかな様式美と格式ある礼法を重んじ、正々堂々、技と力を競い合いながら今に伝えられてきました。土俵上での力士の所作すべてには「神に捧げる」意味が込められています。そうした所作の持つ意味について、ご紹介します。

## 「土俵祭り」

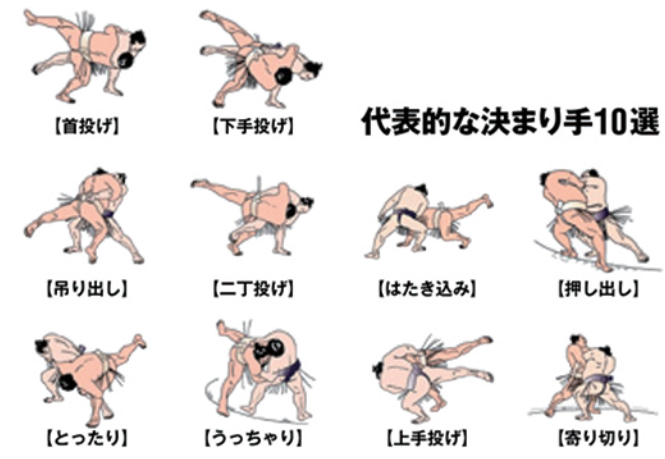


本場所初日の前日は、土俵を清め、場所の無事と力士の安全を祈る儀式を行います。神官姿の行司が祭主になり、お払いをして祝詞をあげます。土俵の中央に掘った穴に、神へのお供えものとして、勝ち栗・塩・洗米・昆布・するめ・

## 「決まり手」

相撲48手と言われていますが、48手は数が多いという意味で、江戸時代には数え切れない程の技がありました。その後、決まり手が洗練され、現在では、決まり手の数が82手になりました。

### 代表的な決まり手10選



# 食

土俵の興奮を間近に感じながら飲んだり食べたりできるのも、大相撲観戦の楽しみ方のひとつ。お弁当、お酒、おつまみ、お菓子...。まるで銭敷席ごとに、小さな宴がいくつも開かれているような風景は、大相撲ならではの雰囲気です。ここでは国技館ならではの名物グルメの数々をご紹介します。



## 「焼き鳥」

相撲は手をつくると負け、ことからは鳥は二本足で立つので縁起物とされており、国技館で焼き鳥が名

我が国の相撲の起源としては、古事記(712年)や日本書紀(720年)の中にある力くらべの神話や、天覧勝負の伝説があげられます。相撲はその年の農作物の収穫を占う祭りの儀式として毎年行われ、これが後に宮廷の行事となり300年続くこととなります。

## 「戦国の力じまん」

鎌倉時代から戦国時代にかけては武士の時代。武士の戦闘の訓練として盛んに相撲が行われました。織田信長は深く相撲を愛好し、元亀・天正年間(1570-92年)に近江の安土城などで各地から力士を集めて上覧相撲を催し、勝ち抜いた者を家臣として召し抱えました。

## 「江戸文化と相撲」

江戸時代に入ると浪人や力自慢の者の中から、相撲を職業とする人たちが現れ、全国で勧進相撲が

カヤの実の六品目を埋め、塩と酒で清めます。土俵はこの儀式によって、神聖なものになります。

## 「力士の所作」

### □力水

身を清める意味の力水。前の取組で勝った力士から水をうけ、口をすすぎます。負けた力士は退場するので、その場合は次に取組む控えの力士が代わりに行います。



控がない取組―幕内土俵入前の十両最後の一番は呼出が、結びの一番の場合は付け人が行います。

### □清めの塩

地の邪気(悪い気)を払い、土俵を清める意味から、土俵には「清めの塩」をまきます。塩には殺菌効果があるので、すり傷や切り傷の化膿止めにもなります。一場所です約六百キロ使われます。

## 「着物と地位」

### □着物

力士の服装は素材や種類の違いがありますが、外出の際には全員着物を着ています。十両からは正装である紋付羽織袴の着用を許されます。



物になったのは蔵前国技館時代(約60年前)から。当時焼き鳥は敷地内で焼かれており、あたりには焼き鳥のいいにおいが漂い、立ち込める煙に風情がありました。現在は、国技館の地下で作られています。その数、なんと1日平均45000本!当時の味を落とさないため、6回もタレを染み込ませ、手間隙かけて作られています。国技館に観戦にこられた際には是非ご堪能ください。

## 「ちゃんこ」

「ちゃんこ」と聞けば、殆どの人は「ちゃんこ鍋」を連想するでしょうが、相撲界でちゃんことは力士がつくる料理全般のこと。チャーハンや目玉焼きも力士がつくったものであればちゃ



行われるようになり、江戸時代中期には定期的に相撲が興行されるようになりました。やがて谷風、小野川、雷電の3大強豪力士が出現し、將軍上覧相撲も行われ相撲の人気は急速に高まり、今日の大相撲の基礎が確立されるに至りました。

相撲は歌舞伎と並んで一般庶民の娯楽として大きな要素をなすようになりました。

## 「江戸時代から変わらぬ姿」

大相撲は、長い歴史の中で次第にルール化され、洗練され、様式化されてスポーツとしての形態を整え、我が国固有の伝統文化となりました。

土俵入り、番付表、化粧廻し、髷、着物、取組。江戸時代から時間が止まっているかのように、長い歴史と伝統を今でも生で感じられる大相撲。1500年以上続く歴史を国技館では是非ご体感下さい!



江戸の相撲絵にある土俵入りの風景。現代の土俵入りも江戸時代から変わらない光景。「東ノ方土俵入之図」豊国(3代)画 弘化2年(1854年)



### □横綱土俵入り

化粧廻しの上に綱を締めた横綱が、行司の先導で、露払い、太刀持ちをしたがえて土俵に上がり土俵入りを行います。

土俵入りの型には「雲龍型」と「不知火型」の二種類があります。

### □弓取り式

勝った力士に弓を与えたところ、力士が弓を持って舞ったのがはじまりといわれています。千秋楽だけに行われていたものが、毎日行われるようになりました。現在は、幕下力士の中から選ばれた力士が専門に行います。



## 「行司」

### □勝敗を裁く判定役

取組の進行役が行司の仕事です。相撲において最も重要な取組み、その「行い」をまさに「司る」のが行司の役目。立行司は最高位の行司のことで、上位の木村庄之助とそれに続く式守伊之助がいます。

### □番付

力士の実力別ランキングである番付表。表にある細かい文字を書くのも行司の仕事です。ここで書かれる相撲字を「根岸流」とも呼び、この独特の書体を体得するのも行司の重要な修行です。



最上段の右が東幕内、左が西幕内。他に、力士の地位や出身地、行司や呼出の名前など、その場所に関する様々な情報が載っている。

## 「相撲弁当」

国技館の館内で販売されている、力士弁当。現在は横綱・大関の各弁当が販売されています。館内の売店では、それぞれの力士の好物や出身地にちなんだオリジナルメニューの力士弁当が並べられています。